

新しいスポーツが生成する過程の研究

- スノーボードで「籠る」ひとへのインタビュー調査をとおして -

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
対人援助学領域
家族機能・社会臨床クラスター
橋本 裕子

2014年の冬季五輪、ソチオリンピックからが正式種目として採用されることが決定した種目の中に「スノーボードのスロープスタイル」がある。

スポーツが生成し制度化されていく過程には何があるのだろうか。日本ではカルチャーではないスノーボードではあるが、欧米諸国ではカルチャーの側面を持っている。そこで、欧米のカルチャーの代表的なものである「スケートボード」のドキュメント DVDを参考にスポーツの制度化の過程をみていく。

そこには、大きな「革命」「転換点」があった。少年たちの「非行」や「逸脱」行為からである。「少年たち」がスケートボードの生成に大きな影響を与え、常に変化をもたらしていたのである。一見、破壊行為のように思われることから生まれた産物が、今のスケートボードなのである。

スノーボードでも同じような現象が起こっているのではないだろうか。それが「籠り」である。「籠り」とは、冬の間は雪山に籠ってスノーボードをするという人たちのことをいう。それは、スケートボードの少年たちとは、違うが似たような現象なのではないだろうか。人生のレールから外れて、違う道を歩むということである。

「何か新しいものが生まれるときには、何かおおきなエネルギーが作用する。そのエネルギーを発するのは「人」である。今あるものを変えていこうとする力を持っているのは「人」なのである。人がカルチャーを作っていくのである。

一見、逸脱的とも思える「籠る」ということをする人にインタビュー調査を行い「籠る」こと「ハマル」ことについて考察する。

既存のものではなく、常に新しいものを探し生み出そうとしてきた姿勢が、枠にはまらないものであったため、「自由」や「不良」と言われることが多いが、それは進化していくために必要なパワーなのである。

スノーボーダーは、自律的であり「自由」を「今」を愛し、少しの「逃避性」はあるが、この緩やかな感じの中で、新たなものを生み出していっている。

パワーをもった「人」が動くことで、ものごとが生成され進化していくのである。